

(別表第1の3)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 2 月 7 日

【評価実施概要】

事業所番号	3870200783		
法人名	医療法人 平成会		
事業所名	ほっとやまうち		
所在地	今治市常盤町8-4-31 (電話) 0898-33-9515		
管理者	木村文吾		
評価機関名	愛媛県社会福祉協議会 利用者支援班		
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8-15		
訪問調査日	平成 19 年 12 月 14 日	評価確定日	平成 20 年 2 月 7 日

【情報提供票より】 (平成 19 年 11 月 19 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 10 月 16 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	23 人	常勤 22 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	22.5 人

(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	41,400 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷金	有()円 ○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円 ○ 無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,100 円	

(3) 利用者の概要 (平成 19 年 11 月 19 日事業所記入)

利用者人数	26 名	男性 5 名	女性 21 名
要介護 1	5 名	要介護 2	9 名
要介護 3	6 名	要介護 4	6 名
要介護 5	名	要支援 2	名
年齢	平均 85.8 歳	最低 50 歳	最高 99 歳

(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算

指定	あり	指定介護予防認知症対応型共同生活介護
指定	なし	指定認知症対応型通所介護
届出	なし	短期利用型共同生活介護
加算	あり	医療連携体制加算

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路沿いにある4階建てのホームである。周辺にはマンションや企業のビルが多い。近くに母体病院があり、利用者の健康管理をサポートしている。「ほっと安らぎ、笑顔で自分らしく!」という理念にゆるぎはなく、利用者・職員共に笑顔で自分らしい日々を送っていることが感じ取れる。平成19年度から、『その人を知る』ことで生活の質を向上させていこうという取り組みを始めており、今後の成果が期待される。

【質向上への取組状況】

▼ 前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)

前回評価での主な改善課題について、①利用者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア②服薬の支援③緊急時の手当てといった目標に対し、職員全員が意欲を新たにし、具体的な改善計画を立てて取り組んでいる。ケアの質を向上させようと、センター方式を取り入れて基本から見直そうとしている。

▼ 今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)

自己評価に一人ひとりが自分で取り組むことで、自己を振り返り、気づきがあり、ケアの質の向上に結び付いている。

▼ 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)

大学や高校の先生をメンバーとする、制度や組織づくりなどの研修会的な会議となっている。今後は婦人会・青年会・地域の消防団・商工会議所など、地域活動の推進役となっているキーパーソンをメンバーに加えて、様々な意見を引き出し、改善に向けた具体的取り組みにつなげて行くことを期待する。

▼ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)

来訪する家族がほとんどなので、その度に全てを報告し、意見を聞いている。更に、月に一度は担当職員が個別に手紙で様子を知らせている。3か月に1度家族会を開催し、出された意見や要望を真摯に受け止め、改善できることから取り組んでいる。

▼ 日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)

学生ボランティアを受け入れている。また、自治会に入り、行事には参加しているが、地域の人と顔の見える付き合いは少ない。買い物に向いたり、散歩の途中で出会ったりできる近所の方と、日常的な交流ができるよう工夫することが求められる。運営推進会議での情報交換を有効に活用し、積極的に地域の活動に参加していくような取り組みを期待する。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
 - 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。
 - 「取り組みの事実」は必ず記入すること。
- (注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームほっとやまうち

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)
氏名 真鍋 てるみ

評価完了日 平成 19 年 11 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 「ほっとやすらぎ、笑顔で自分らしく」の理念を掲げている。毎日理念を思い浮かべて介護にあたる様になっている。 (外部評価) 開設直後に職員全員で話し合っって独自の理念を作っている。地域密着型としてさらなる理念を検討したが、既存の理念が全ての思いを包括しているため、これに代わるものはないという思いを強くしている。	※	理念を具体的にどう取り組むのかの話し合いを全体で持ちたいものだ。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) わかりやすくロザさみやすい理念であり、日々実践しながら取り組んでいる。 (外部評価) 新任職員と共有する難しさはあるが、月1回のミーティング時のみならず、日々の生活の各場面を通して話し合いながら、理念の実践を目指している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) ご家族の方にも入口に掲げているので、知ってもらっていると思う。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 通勤中は近所の人に気軽に挨拶はしている。近くの農学科の高校生は立ち寄ってくれる。	※	もう少し近所の人気軽に遊びに来てくださる工夫をすべきだと思う。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 3ヶ月に1回の運営推進会議に自治会長さんや近くの高校の先生たちが参加されている。 (外部評価) 学生ボランティアを受け入れている。また、自治会に入り、行事には参加しているが、地域の人と顔の見える付き合いは少ない。	※	買い物に出向いたり、散歩の途中で出会う近所の方と、日常的な交流ができるよう工夫することが求められる。運営推進会議での情報交換を有効に活用し、積極的に地域活動に参加できるような取組みを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 今のところ取り組んでいるとはいえない。	※	地域の老人クラブの方と交流する場を作ったらどうか。グループホームに遊びに来て一緒に食事やレクを楽しむなど。認知症ケアの研修会をする。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) グループホームの密室性や質の向上の為に設けられたもので、それを理解し、日々の介護にあたっている。又、外部評価の結果について職員全員で検討し、改善している。 (外部評価) 前回評価を受けての改善については、職員全員で対策を検討し、具体的に取り組んでいる。自己評価についても、一人ひとりが自分で取り組むことで、自己を振り返り、ケアの質の向上に結び付けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 職員も交代で出席してもらい、報告されたものを共有し、活かすようにしている。 運営推進会議で検討した事をサービスに反映する事ができた。(外出援助や買い物援助) (外部評価) 大学や高校の先生をメンバーとして、制度や組織づくりなど、研修会的な会議となっている。	※	例えば婦人会、青年会、地域の消防団、商工会議所など、地域活動の推進役となっているキーパーソンをメンバーに加えて、様々な意見を引き出し、改善に向けた具体的取り組みにつなげて行くことを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) できていない (外部評価) サービスの向上に役立つよう、市社会福祉協議会主催の地域ケアネットワークに参加し、研修会を開催している。	※	他のグループホームと協同して研修会等を開き、市担当者との交流を持つ。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議で話し合い、必要な人に活用できるよう話している。		
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待は行われていないが、時々職員の言葉の暴力「・・・したらいけません」という事があり、注意している。	※	認知症を深く理解する学習会を開く必要性を感じている。 拘束や虐待についての研修会をひらく。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 十分な説明を行い、理解を得ている。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者が何でも話してくださるよう、声かけ対応している。信頼関係を築く事が大切である。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) フロア内に行事や日常生活の何気ないスナップ写真を飾り、見てもらっている。 職員の異動の報告はしている。 急変時は家族に電話連絡している。 <hr/> (外部評価) 来訪する家族がほとんどなので、その度に利用者に関わる全てのことを報告している。月に一度は担当職員が個別に手紙で様子を知らせている。	※	利用者の家族が来られたら、最近のカルテを見せて様子を話すようにしているところだ。
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情窓口を設けている。直接いわれたらきちんと対応している。 <hr/> (外部評価) 3か月に1度家族会を開催しており、出された意見や要望を真摯に受け止め、改善できることから取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のミーティングを行っており、職員も意見を述べている。		「脱衣所に縦の手すりを取り付けて欲しい」と希望し、設置してもらった。
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 職員の急病などの勤務体制の変更にもすばやく対応できている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 離職も少しあるが、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。 (外部評価) 理念の共有が難しいことで退職したケースなどもあるが、利用者等に前もって説明はしていない。	※	ユニット間の交流などを通してできるだけ顔見知りになっておいて異動するなど、利用者が不安にならないような配慮をしながら適切な異動ができるような工夫を期待する。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 内外の研修を受ける機会を作っている。 (外部評価) 様々な研修会の情報を公開し、段階に応じた研修が受けられるよう計画的に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 地域の同業者が相互評価することを実施して、オープンにしている。 (外部評価) 近隣のグループホーム間で相互評価に取り組んだり、管理者同士のネットワークはあるが、身近な地域の同業者での職員間の交流はない。	※	地域のグループホーム間でネットワークを組み、職員の相互研修を通して、ケアの質の向上につながるよう取り組むことを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 運営者はグループホームの運営を管理者に任せており、管理者は職員の運営を任せている。		
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 研修会等の案内をこまめに行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 認知症があり、なかなか難しい面もあるが、本人が何を望んでおられるかを聞き取る努力はしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) よく聴き、困っている事を理解し、家族と信頼関係ができるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 今何が必要かを知り、サービスの利用に努めている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) デイサービスを利用しておられ、その時にグループホームに来てもらって、おやつを食べてお話しをし、雰囲気を楽しんでもらった。 (外部評価) センター方式を取り入れることで、その人を知るという着目点を大切にしており、利用前に訪問や見学来訪を重ね、顔なじみの関係をつくるよう心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 食事を共にしておしゃべりしながらゆっくり食べてもらっている。片付けも一緒に行っている。昔の事や食べ物などについて教えてもらっている。 (外部評価) 料理の仕方、食材の切り方など利用者の得意な分野について教えてもらいながら、一緒に調理をしている。粕甘酒のつくり方なども教わっている。	※	一人1日5分でも向かい合ってゆっくり話す機会を作りたい。
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の体調不良のときは、速やかに相談して、家族と共に良い方法を選択している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 本人の体調変化がある時は家族に連絡し、医療が必要な時は同行してもらっている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) お友達や家族が気軽に面会に来られている。挨拶し、湯茶を出す事もある。		家族との外出の機会を作れる様相談にのる。(介護の仕方がわからず、不安で連れて帰られない事あり)
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 一緒に食事や体操、レクを行っている。それぞれ気の合う人たちの輪ができています。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 入院された時も時々お顔を見に行き、「みんな帰ってこられるのを待っていますよ」と声かけしている。		引き続き、本人さんはもちろんご家族ご親戚の方とも付き合いを続ける機会に取り組む。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一度聴いたらそれきりにならない様、折に触れてその人と向かい合って知る努力をしている。「サービス担当者会議」でご本人も同席して話を聞いている。 (外部評価) 利用前の暮らしぶりや家族の話を聞いたり、日々の生活の中で利用者へ声かけしていく中から、暮らし方の希望や意向を少しずつアセスメントシートに付け加えて把握に努めている。	※	センター方式の項目を増やして、その人を深く知る努力をする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族の方にも協力してもらい、「センター方式B-3」で長年なじんだ習慣や好みを書いてもらい、それを知って介護に活かしている。	※	まだ「センター方式」のシートを埋めるには不十分なので、面会に来られた時やご本人との会話の中で聞き出したい。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 一人ひとりの体調や気持ちに寄り添い、表情や会話を通して観察し、介護に活かしている。		なお一層その人の安心された生活が継続できるように努力したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 介護保険の更新時に「サービス担当者会議」を開いてご本人やご家族からの希望をお聞きして作成している。又、ミーティングや職員との情報を共有し、作成している。 (外部評価) 担当の利用者について介護計画を評価して、より具体的な介護計画の素案を作成している。それを基に、計画作成担当者が他職員の気づきや家族の意見を取り入れ、ミーティング時に検討を加えて仕上げています。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 3ヶ月毎に見直しを行っているが、状況が変化した時は現状に即した計画を作成している。 (外部評価) 利用者の状態によって、3か月、6か月と期間に応じて見直しを行っている。また、状態に変化が見られた場合は、状況に応じて見直しを行い、より具体的な介護計画としている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個人カルテに気づきやその人の言われた言葉を大切に記入するようにしている。	※	個別の記録も職員間で共有するのではなく、ご家族の方が面会に来られた時に開示して様子を知っていただくようにする取組みを始めている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 3ヶ月毎の家族会での交流や年1回の夏まつりを合同で行っている。 (外部評価) 本人や家族の要望に応じて病院受診や墓参り、自宅訪問などの外出支援を柔軟に行っている。	※	季節の行事、お月見、いもたき、クリスマス会など一緒に楽しむことができればよいと思う。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 短大生のボランティアさんと買い物や散歩を時々行っている。近くの農業科の高校生と野菜の収穫を共にしている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 今のところ実施していない。		ご本人に他のサービス利用の意思があるか確認する。
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターと協働していない。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 病院母体のグループホームなので連携を取りながら受診している。	※	かかりつけ医のホームへの月2回程度の往診をしてもらいたい。
			(外部評価) 家族がかかりつけ医の受診に付き添う場合は、日常の様子を口頭で伝えている。	※	利用者のかかりつけ医と情報の共有がスムーズに行えるよう、受診時には、日常の健康状況の変化などの記録を持参したり、薬の服用状況などが伝わるような文書を所持するなどの工夫を期待する。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 十分に支援しているとはいえない。		認知症の専門医の往診ができるようになればよいと思う。
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 月～金曜日午前中に看護師さんが来てくださり心強くなった。病院の看護師長さんも時々来てアドバイスされている。		午後からもいてくださればなお良い。
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 母体の病院と常に情報交換して連携に努めている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 最近も重度化された人を介護し、家族とも話し、医療が必要になった為入院された経緯がある。	※	今後さらに重度化や終末期のケアが求められるのでその取り組みについての学習が必要である。
			(外部評価) 重度化や終末期に関しての方針を入居時に家族には説明しているが、明文化していない。		重度化や終末期は避けて通れないので、ホーム独自の方針を明記すると共に、マニュアルを作成し、本人、家族を中心に、関係者が話し合いを繰り返し、全員で方針を共有しておくことが望ましい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 最近取り組んだ事がありグループホームで看れるところまで頑張ったが、限界やご本人の体調を考えると入院治療が必要と考え、医療と連携した事がある。	※	今後ますます求められる事なのでそれに向けての学習をして準備しておくことが大事だ。
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 体調不良で入院となった場合があったが、家族とも話し合い決めたことがある。		今後も住み替えによるダメージを防ぐ為に面会やフォローアップをするようにしたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 一人ひとりのプライバシーを尊重し、人権意識を持って介護に従事している。 (外部評価) 職員は認知症についてよく理解しており、尊厳を損ねることのない対応に徹している。また、個人情報にあたる記録は勿論、写真の公開などについては、家族の意向にそって十分な配慮をしている。		今後も特に重要な問題であるので、プライバシーの確保を徹底したい。
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) なかなかコミュニケーションのとりにくい方もおられるが、声かけてその人の希望に添えるように日々の介護で支援している。	※	「センター方式」をもっと取り入れその人を理解しできる場所を捜す工夫をする。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりのペースにあわせた支援を行うようにしているが、それでご本人が満足されているか把握できていない。 (外部評価) 起床や食事についても利用者の要望を大切にしながら、生活のリズムがつかめるよう根気強く声かけをしている。	※	その人らしい暮らしとはどういうことかももう少しその人を深く知る努力をし他の職員と共有しながら進めていく。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 朝の更衣時、どちらを着られるか選んでもらったりしている。外出時は特に身だしなみに注意して支援している。		理美容は本人の希望があれば行きたい所に行かれている人もいる。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 配膳、下膳、片づけができる人はその力を活かして手伝ってもらっている。 (外部評価) 調理から片付けまで、できることを見つけながら参加してもらうことで、食事に対する意欲を引き出す工夫をしている。そろって食事ができるよう、職員が必要な介助を適切に行っている。	※	もう少し料理の下ごしらえも一緒にできるよう、時間にゆとりを持って取り組みたい。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 飲み物やおやつはその人の好まれる温度、好みのものを食べてもらっている。	※	お酒の好きな利用者が入居されたのでぜひ楽しんでもらえるようにしたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 声かけしてなるべくトイレで排泄してもらえているようにしている。排泄チェック表に記録してパターンをつかんでいる。		便失禁があるため、おむつはずしまではいかないが、失禁パンツにしたい人もおられる。
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) ある程度のパターンが決めてあるが、本人の体調を考慮して入ってもらっている。 (外部評価) 夕食後や寝る前に入りたいと希望する方はなく、自然に午後の時間帯に、希望者から順番に一人ずつ入浴している。		これから冬に向けてゆっくり浴槽に入ってもらえるように支援したい。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 体調不良やその時の状況に応じて一人ひとりに合った対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 歌の好きな人には音楽をかけたり、歌詞本を渡して歌ってもらっている。パズルやボール遊び、しりとりなどしている。 (外部評価) 一人ひとりできることを把握し、それぞれに担当を割り振っている。うたを歌ったり、ラジオ体操などのレクリエーションや、ドライブなどできることを支援している。	※	その人の喜ばれる楽しみごとが何であるかを見つける努力をする。 センター方式によって把握した本人の意向や思いを活かした役割や楽しみごとの支援を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分でおこづかい程度のお金を持たれた利用者が4人おられて、本人の意思で使ってもらっている。おつりの確認もしている。		みんなで一緒に出かけることは無理でもあり、個別に出かける機会を作り、自分出支払ってもらえるようにする。
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) なかなか戸外に出かけることがないが、階下を下りて、花壇や野菜畑を日常的に散歩している。 (外部評価) 庭先の菜園に出るくらいで、日課として外に出られる機会は少ない。	※	一人ひとりの希望に沿って出かける機会を作りたい。 表通りは交通量も多く、民家やお店も少ないが、ホーム裏には田んぼも残っており、公園もあるようなので、車いすの方も含めてゆったりと散歩をするなど、外の風に触れることで季節を感じたり、地域の方との出会いが生まれたりすることを期待したい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 最近みんなで「くるくる寿司」を食べに行っておおいしく喜んでもらえた。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をかけたい時はいつでも応じ100番に申し込み職員が対応して話してもらうようにしている。		手紙やお礼状を出したい人には葉書や切手を買って来て書いてもらっている。
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 日中や夜9時まではエレベーターに乗り、玄関で面会簿に記入していただければ自由に訪問できるようにしている。		ご家族が訪問時何らかの不満をもたれてないか、聞く機会を作る。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。利用者の中で一人、徘徊される方がいるが玄関の戸を開けエレベータホールまで行かれ、ひとり言を言っては又戻ってこられている。見守りをしている。 (外部評価) 各階ごとにあるどのユニットも鍵はかけておらず、自由にエレベーターで移動できる状態にしている。1階にデイサービスセンターがあり、玄関脇の事務所には複数の職員が常駐しており、支援が得られる体制にある。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 転倒の危険のある人は、特に席を立たれるときの見守りをしている。トイレに行かれる時は手を引き歩行している。居室におられる時は時々確認している。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 取り組んでいる。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) マニュアルがあるが、実際にその時対応ができるか不安もある。	※	一人ひとりの状況に合った事故防止が大事なもので、普段から話し合う必要がある。「リスクマネジメント」の研修があったので受講して学び安全配慮に心がける事が大事。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 定期的に行う必要性を感じている。定期的に行う事で事故発生時にあわてず対応ができるのではないかと。	※	日頃から応急手当の練習や初期対応の訓練を定期的に取り組む。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 車いすやシルバーカー利用者がほとんどなのでエレベーターでの避難になり不安である。 (外部評価) 警備会社の支援を得て、事業所内で年2回火災を想定した避難訓練を実施している。火災報知器の定期点検も実施している。	※ ※	年に1回は地域の人と共に避難訓練を行いたい。 防火扉の外への避難だけでなく、消防署に依頼をして適切な避難訓練の検討、また地域の協力を得られるような関係づくりとマニュアル整備に取り組むことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 転倒の危険のある人にはご家族が面会に来られた時やサビ担当会議の時など機会をとらえて話すようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 個人カルテに記入し申し送りノートにも記入、申し送り時にも伝えて、情報を共有し対応している。		早期に発見して大事に至らないよう、又、医療機関との連携をとる。
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 理解し食後必ず当番の人が服薬の支度を行っている。排便についても服薬の調整を行っている。		毎食後、誰が飲ませたか記録に残している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 朝食後冷たい牛乳を飲んでもらう。ごぼう・いも類などの繊維質の食品を摂ってもらう。運動や腹部マッサージを行っている。		麦茶から便秘に良い「ハーブ茶」へ、薬の飲み合わせに問題が無ければ取り入れたいと思っている。
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後必ず声かけし、一人でできない人は介助にて口腔ケアを行い清潔保持に努めている。		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 調理した献立名と材料を記入し毎食後と10時・3時・夜間の水分補給などその人に応じた対応をしている。デイサービスの栄養士さんに時々見てもらいアドバイスを受けている。 (外部評価) 利用者それぞれに個別の必要量を把握しており、食事及び水分摂取量を日々記録することで、適切な支援ができている。		毎食後の主食・副食の量を記帳している。水分量は自分で摂取できない人を対象にしているが夏場は全員記帳するほうが良い。
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 対応の取り決めがあり感染症の予防に食前の手洗い、まな板などの消毒、寝具の洗濯、日光に当てるのは定期的に行うように日頃から気をつけている。		感染症は恐ろしいので学習会をして知識を身につけ、予防していなくてはならない。
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) ふきんは毎食後次亜塩素酸ナトリウム液につけ消毒し日光に干す。まな板も同様にしている。冷蔵庫もこまめに次亜塩素酸ナトリウムで拭いている。食材は週2回購入し冷凍保存もしている。		予防が大事なので引き続き清潔に努めたい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 日中は自動ドアにして、いつでも出入りできるようにしている。入り口の周辺には季節の花や野菜を植えて季節が感じられるようにしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 夏場は太陽の日差しが入るので目に入らないようカーテンを閉めて調整をしている。テーブルに季節の草花を飾っている。 (外部評価) 居間や廊下はゆったりとしており、清掃が行き届き、思い思いに過ごせるスペースがある。季節の花があちこちに飾っており、ほっとする雰囲気作りに心がけている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 所々にベンチやソファを置いているので利用者同士でおしゃべりされたり、窓辺にイスを持って行き往來を見れるようにしている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) その人らしいものをそろえ、家族の方が持ってこられた置物、植木などで落ち着いて生活できるようにしている。 (外部評価) ほとんどの部屋のドアが開放されており、十分な広さの中に小物入れ、座いす、机、写真、植木鉢、位牌、テレビなど思い思いのものが持ち込まれ、利用者の居心地よい暮らしが感じられる居室となっている。		居室の安全には注意して別途策が抜けないように紐で縛っている。腐ったもの、枯れた物は処分している。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 朝や清掃時には窓を開け空気の流れを作り、エアコンで外気温との差が大きくなるようにし、落ち着いて生活ができるようにしている。		各利用者のお部屋もその人に合わせてこまめな調整を行っている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 要所に手すりを設置し、車いすでも通れるよう備品を設置している。ベットもその人に合わせた高さになっている。		脱衣場に衣服の着脱の際、立ってもらうので横の手すりがあつたが縦の手すりを設置して安全に立位が保たれるようになった。
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 各居室の入り口には名札をかけている。「トイレ」がわかるように表示している。	※	わかりにくい人もおられるのでその人にもわかる工夫をしなくてはならない。
87		○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 外気浴に出かけた時、腰掛けるベンチがあり花や野菜の植栽を眺められ、周りを安全に散歩できる見守りはしている。		ベランダは主に洗濯干し場と野菜の貯蔵庫として使用している。段差があり職員と一緒に干すのを手伝ってもらっている。

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者の (自己 ② 利用者の2/3くらいの 評価) ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない	自分の意思を伝える事ができる人はその人の意思を尊重しているが、コミュニケーションが取りにくい自分の言葉で表現できない人には、かかわってその人の不満をなくし以降を掴む努力はしている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	(自己 ① 毎日ある 評価) ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	毎食時に低く音楽を流し、おしゃべりしながら食事を楽しんだり一緒に洗濯物をたたむなど一緒に過ごす時を心がけている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	あまり無理強いをせず、お部屋に生きたい希望があれば短時間でも過ごしてもらっている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	日常のあいさつ、すれ違う時の声かけや見守り、食事など多くのかかわりを働きかける。ニュースや季節の話など身近な話題や昔の行事などについて語り合う。一緒に歌を歌うなど。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	家族の方と時々、病院や食事、墓参りなどに出かけておられる。ホームとしては十分に外出の機会を作っているとは言えない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	病院が母体であるので緊急や入院治療ができるが、定期的に往診して直接診てほしい。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	なるべく利用者の要望に応じていきたいと思っているが、我慢されて本音を言わない時もある。それをどれだけ引き出せるかが課題である。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない	面会時などこちらから声かけしてお話をするようにしているが入社して4ヶ月なのでまだ十分に信頼関係ができていないと言いたい。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	(自己 ① ほぼ毎日のように 評価) ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	ご家族や知人が気軽に訪れている。地域の人々は近くの高中生や短大のボランティアさん、年に何度か演劇やトーンチャイムの方が来られて音楽を楽しませてくださっている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	夏まつりも地域の方が大勢参加して下さった。介護福祉を目指す短大生のボランティアさんが週1回来てくださり、又近くの農業科の先生と生徒さんが来て畑へ作物を植えてくださっている。
98	職員は、活き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 ② 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員同士仲良く協力し合っているが、中にはよく体調不良で休んだり利用者に対して暴言を吐いたり、自分の態度を顔やしぐさで人に不快感を与えている人もいる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	認知症でもしっかりと自分の考えや見方ができる人がおられるので満足されてない部分があると感じておられると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての家族等が (自己 ② 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	日頃の面会時の言動ではそうだと思っているが本音はアンケート（家族）で知りたい。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

町の中にあるが、畑や花壇があり季節の作物や花を植えている。グループホームは2階・3階・4階と平地ではないが、日常的に階下に降りて自然に触れる事ができ、休憩するベンチも2つ置かれており、ゆっくり日向ぼっこなどして過ごすことが出来る。窓からも往來の人や車、裏には田んぼが広がって蛙が鳴き、隣はコンビニがあり騒音でやかましいこともあるが若者や子供の声が聞こえるなど生活や社会の様子がわかるよい立地である。10時には毎日ラジオ体操をしている。その後その日の日勤者によるストレッチやリハビリ体操を行い、体力の維持に努めている。利用者も職員も生き生きとした一日をおくっている。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームほっとやまうち

(ユニット名) 3F

記入者(管理者)
氏名 宇高 加代子

評価完了日 平成 19 年 11 月 8 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) 皆で考えた理念を目標に、その人らしい暮らしが出来るように支援 「ほっとやすらぎ笑顔で自分らしく」は自分たちで考え、理念として掲げている (外部評価) 開設直後に職員全員で話し合っって独自の理念を作っている。地域密着型としてさらなる理念を検討したが、既存の理念が全ての思いを包括しているため、これに代わるものはないという思いを強くしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 「ほっとやすらぎ笑顔で自分らしく」は自分たちで考え、理念として掲げている 理念は覚えやすく、職員が共有する事ができている (外部評価) 新任職員と共有する難しさはあるが、月1回のミーティング時のみならず、日々の生活の各場面を通して話し合いながら、理念の実践を目指している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議のメンバーに、家族、老人会会長、自治会長、民生委員等地域に関わりのある人になってもらっている。	※	家族の方には理解して頂いていますが、地域の方にもっと理解していただいたら・・・と思う。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 気軽には声をかけています。家庭菜園等を通じて隣近所づきあいをしている。	※	気軽に立ち寄って頂ける様な行事や会合を開くと良い。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 出来るだけ参加している。 自治会活動、地方祭等への参加や地域清掃等を通じて交流している。	※	もっと参加して地域との交流を深めるといいです。
			(外部評価) 学生ボランティアを受け入れている。また、自治会に入り、行事には参加しているが、地域の人と顔の見える付き合いは少ない。	※	買い物に出向いたり、散歩の途中で出会う近所の方と、日常的な交流ができるよう工夫することが求められる。運営推進会議での情報交換を有効に活用し、積極的に地域活動に参加できるような取組みを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいない	※	話し合いの機会を作ると良い。 認知症ケアの専門家の立場で、研修会を行い交流し、役立ちたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 改善する所は改善し、良いホームにと取り組んでいる。		
			(外部評価) 前回評価を受けての改善については、職員全員で対策を検討し、具体的に取り組んでいる。自己評価についても、一人ひとりが自分で取り組むことで、自己を振り返り、ケアの質の向上に結び付けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催。 色々な意見を参考にして、サービスの向上に活かしている。 テーマに対し、委員の方から積極的で建設的な意見が多く、活用している。 (外部評価) 大学や高校の先生をメンバーとして、制度や組織づくりなど、研修会的な会議となっている。	※	例えば婦人会、青年会、地域の消防団、商工会議所など、地域活動の推進役となっているキーパーソンをメンバーに加えて、様々な意見を引き出し、改善に向けた具体的な取り組みにつなげて行くことを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいない (外部評価) サービスの向上に役立つよう、市社会福祉協議会主催の地域ケアネットワークに参加し、研修会を開催している。	※	地域ケアネットワークに、市の担当者の参加を促す。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加し、勉強している。 対象となる人がいるが、利用できていない。	※	一部の職員が研修に参加しましたが、なかなか理解できないので、機会があれば研修に参加したいです。 成年後見制度を思い切って利用する。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待がない様に、一人ひとり気をつけています。 研修会に参加し、学んでいる。虐待についても話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 文書で説明、同意が得れば印鑑を押印していただいています。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見、不満、苦情が言いやすい雰囲気作りをしている。また、運営に反映している。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 家族が面会に来られた時に報告。 職員が金銭管理、領収書、残金報告。 ほっとだより (外部評価) 来訪する家族がほとんどなので、その度に利用者に関わる全てのことを報告している。月に一度は担当職員が個別に手紙で様子を知らせている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情箱を設置。 家族会等を通じて、意見、不満、苦情を聞き、運営に反映している。 (外部評価) 3か月に1度家族会を開催しており、出された意見や要望を真摯に受け止め、改善できることから取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のカンファレンス ミーティングや運営推進会議で意見や提案を聞いている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 随時話し合って対応。 柔軟な勤務調整をしている。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の技量によって配置しており、異動は小規模にしている	※	職員が退職した場合は、速やかに補充して頂きたい。
			(外部評価) 理念の共有が難しいことで退職したケースなどもあるが、利用者等に前もって説明はしていない。	※	ユニット間の交流などを通してできるだけ顔見知りになっておいて異動するなど、利用者が不安にならないような配慮をしながら適切な異動ができるような工夫を期待する。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) いろいろな研修の参加を勧めている。		
			(外部評価) 様々な研修会の情報を公開し、段階に応じた研修が受けられるよう計画的に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 相互評価を実施している。		
			(外部評価) 近隣のグループホーム間で相互評価に取り組んだり、管理者同士のネットワークはあるが、身近な地域の同業者での職員間の交流はない。	※	地域のグループホーム間でネットワークを組み、職員の相互研修を通して、ケアの質の向上につながるよう取り組むことを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 運営者は、管理者及び職員にほとんどの権限を与えている。	※	職員の意見をもっと聞いて頂きたい。 休憩の場所がない。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 研修等の情報を随時告知している。	※	職員がもっとやる気を起こさせる様にして頂きたいです。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 一人ひとりに関わって、話を聞くようにしている。		
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 面会に来られた時に、「何でも言ってくださいね」と声かけをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族にとって一番良いと思われるものを選んでいく。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 一人ひとりにあった接し方でゆっくりと。 (外部評価) センター方式を取り入れることで、その人を知るという着目点を大切にしており、利用前に訪問や見学来訪を重ね、顔なじみの関係をつくるよう心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として、いろいろ教えて頂いています。 (外部評価) 料理の仕方、食材の切り方など利用者の得意な分野について教えてもらいながら、一緒に調理をしている。粕甘酒のつくり方なども教わっている。		
28		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方にも、いろいろ協力して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 家族会の開催 いつでも面会できるように		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価)		利用者さんの希望があれば会いに出かけたり、面会に来て頂いたりする。
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 利用者の皆さんが、同じ輪の中に入れるように気をつけています。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価)		入院等による対処の場合は引き続き、お見舞い等をする。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) なるべく本人の希望を取り入れています。 (外部評価) 利用前の暮らしぶりや家族の話を知ったり、日々の生活の中で利用者へ声かけしていく中から、暮らし方の希望や意向を少しずつアセスメントシートに付け加えて把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人や家族の方に聞いています。		独善的な取り組みや、決めつけた取り組みにならないようにしている。
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) 把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月のケアチェック表をもとに介護計画を作成。 (外部評価) 担当の利用者について介護計画を評価して、より具体的な介護計画の素案を作成している。それを基に、計画作成担当が他職員の気づきや家族の意見を取り入れ、ミーティング時に検討を加えて仕上げている。		介護計画は、皆で話し合って作成する。(担当者は決める)
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 6ヶ月に1回見直し 変化がある時、随時見直し (外部評価) 利用者の状態によって、3か月、6か月と期間に応じて見直しを行っている。また、状態に変化が見られた場合は、状況に応じて見直しを行い、より具体的な介護計画としている。		介護計画に沿ってケアが出来ているか、確認する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎月の介護記録		気づきをメモし、介護計画に活かす。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 多機能ではない。 (外部評価) 本人や家族の要望に応じて病院受診や墓参り、自宅訪問などの外出支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) ボランティアや研修生を受け入れている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) していない		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) していない		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 母体が病院の為、家族の方も安心されています。 (外部評価) 家族がかかりつけ医の受診に付き添う場合は、日常の様子を口頭で伝えている。	※	利用者のかかりつけ医と情報の共有がスムーズに行えるよう、受診時には、日常の健康状況の変化などの記録を持参したり、薬の服用状況などが伝わるような文書を所持するなどの工夫を期待する。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 母体が病院なので、随時連絡がとれる。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 母体が病院なので、安心。 毎日、看護師が健康チェック		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 随時連絡をとっている。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 随時話し合っています。 (外部評価) 重度化や終末期に関しての方針を入居時に家族には説明しているが、明文化していない。	※	重度化や終末期は避けて通れないので、ホーム独自の方針を明記すると共に、マニュアルを作成し、本人、家族を中心に、関係者が話し合いを繰り返し、全員で方針を共有しておくことが望ましい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 病院と相談して、本人にとって一番良い方法を選んでいる。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) お互いに納得するまで話し合う。 又、別の施設等へは詳細な情報提供を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 気をつける様、注意している。 さりげない言葉がけ等をしている。		
			(外部評価) 職員は認知症についてよく理解しており、尊厳を損ねることのない対応に徹している。また、個人情報にあたる記録は勿論、写真の公開などについては、家族の意向にそって十分な配慮をしている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 出来るだけ利用者の希望に沿うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 希望に添えない時は、説明して納得していただく。 職員が利用者に合わせる気持ちで接している。 (外部評価) 起床や食事についても利用者の要望を大切にしながら、生活のリズムがつかめるよう根気強く声かけをしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 自分で洋服が選べる人は、選んでもらっています。なじみの美容院へ行ってもらったり、行けない人は美容師さんがホームに来てくださる。		
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 季節の旬を取り入れ、食べやすいように工夫している。又、話題を提供したり、外食や、弁当を買ったりしている。 (外部評価) 調理から片付けまで、できることを見つけながら参加してもらうことで、食事に対する意欲を引き出す工夫をしている。そろって食事ができるよう、職員が必要な介助を適切に行っている。		
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) お酒とタバコは皆さん飲まれないので、飲み物、おやつ等喜んで頂けるものを提供。	※	ゲーム感覚で喫茶店をし、コーヒー券やケーキ券を発行し、好みを確かめる。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表の記入 おむつの使用を減らす努力をしている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 時々職員の都合で決める事がありますが、利用者さんに説明、納得して頂く。 (外部評価) 夕食後や寝る前に入りたいと希望する方はなく、自然に午後の時間帯に、希望者から順番に一人ずつ入浴している。		
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) その人にあったパターンで支援。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) その人にあった役割や楽しみを支援している。 (外部評価) 一人ひとりできることを把握し、それぞれに担当を割り振っている。うたを歌ったり、ラジオ体操などのレクリエーションや、ドライブなどできることを支援している。	※	センター方式によって把握した本人の意向や思いを活かした役割や楽しみごとの支援を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員が管理。その時に応じて渡している。お買い物ボランティアで買い物に行っている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) ホームの周りを散歩、外食、ドライブに行っている。 (外部評価) 庭先の菜園に出るくらいで、日課として外に出られる機会は少ない。	※	表通りは交通量も多く、民家やお店も少ないが、ホーム裏には田んぼも残っており、公園もあるので、車いすの方も含めてゆったりと散歩をするなど、外の風に触れることで季節を感じたり、地域の方との出会いが生まれたりすることを期待したい。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 家族の方にも協力してもらっています。		
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 職員が番号を押して、利用者に電話口に出てもらっています。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) 昼間、鍵は開けており、職員も笑顔で対応する様心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員は身体拘束について理解している。		
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 昼間ずっと鍵をかけていないので、いつでも面会が出来ます。 (外部評価) 各階ごとにあるどのユニットも鍵はかけておらず、自由にエレベーターで移動できる状態にしている。1階にデイサービスセンターがあり、玄関脇の事務所には複数の職員が常駐しており、支援が得られる体制にある。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 出来ていますが、時々大きな声で言う時があるので、気を付ける。 常に見守っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 果物ナイフ、はさみは預っています。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 責任を持って行動している。 リスクや危険を利用者ごとに話し合い、注意、取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 職員全員が消防署員の講習を受講し、応急手当や初期対応の訓練を行った。		積極的に訓練に参加している。
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 火災訓練は、定期的を実施。	※	いざという時にあわてない様に行動できるように。
			(外部評価) 警備会社の支援を得て、事業所内で年2回火災を想定した避難訓練を実施している。火災報知器の定期点検も実施している。	※	防火扉の外への避難だけでなく、消防署に依頼をして適切な避難訓練の検討、また地域の協力を得られるような関係づくりとマニュアル整備に取り組むことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 特に転倒に注意。必ず見守りをしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 毎月のバイタルチェック。 発見の時、病院に連絡、支持を仰ぐ。 家族にも連絡		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員が薬を管理、服薬介助。 服薬してるかチェック、確認している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 起床時、冷たい牛乳、朝食のヨーグルト。適度な運動の実施。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケア		
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分摂取量の少ない方は、摂取量を記入。随時水分補給。 (外部評価) 利用者それぞれに個別の必要量を把握しており、食事及び水分摂取量を日々記録することで、適切な支援ができている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 食事前の手洗い。 1日1回の手すり、イス等消毒。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 夜勤者がハイター、熱湯消毒。 必要に応じて随時している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 季節の花を飾ったり、四季折々の飾り物をしている。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 日差しがひどい時は、レースのカーテンで調節。テレビの音にも配慮。 (外部評価) 居間や廊下はゆったりとしており、清掃が行き届き、思い思いに過ごせるスペースがある。季節の花があちこちに飾ってあり、ほっとする雰囲気作りに心がけている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下やエレベーターホールにソファを置いている。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ダンス・仏壇等、本人が気に入っているものを設置。 (外部評価) ほとんどの部屋のドアが開放されており、十分な広さの中に小物入れ、座いす、机、写真、植木鉢、位牌、テレビなど思い思いのものが持ち込まれ、利用者の居心地よい暮らしぶりが感じられる居室となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 窓を開けたり、換気扇をまわしたり、エアコンで調節。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下・浴室・トイレ等に手すりの設置。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 各居室に表札・テーブルに名前 トイレ・浴室に目印		
87		○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) ホームのまわりは、散歩できます。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ① ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	毎日、笑顔がたくさん見られます。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	利用者さん皆で毎日体操をしたり、トランプ・ことわざ・折り紙等をして過ごされます。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自分出歩ける方は、自由に過ごされています。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自分の役割を持って、積極的に行動。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	介助の要らない方は散歩されたり、家族の方が協力してくださる。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	みなさん少しは不安を持っています。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	状況に応じて対応。納得される。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ① ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会に来られた時や家族会のときに、いろいろお話しをさせて頂いています。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ① ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない	毎月、家族の方が面会に来てくださる方、数ヶ月に1回とかいろいろです。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	1 大いに増えている (自己 ② 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	2ヶ月に1回の開催で、少しずつ増えていると思います。
98	職員は、生き活きと働いている	1 ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) ③ 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	ストレスがたまっている様です。 人員の関係で、肉体的にも、精神的にも。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	感謝の言葉が聞こえたり、「ありがとう」の言葉をよく耳にします。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会に来られても、安心されている様子が見えます。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

地域の中のグループホームを意識している。地域の人たちとかかわりを少しでも多く持ちたいと思っている。例えば、地方祭、清掃等の自治会活動、グループホームが行う夏祭り(行事)に、地域のお店やボランティアの受け入れ等、少しでも外部との関わりを作ろうと努力している。

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

V. サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。
- 各自己評価項目について、「取り組みの事実」を記入し、取組みたいに※を付け、適宜その内容を記入すること。

- 「取り組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームほっとやまうち

(ユニット名) 4F

記入者(管理者)
氏名 近藤 礼子

評価完了日 平成 19 年 11 月 7 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価票

【セル内での改行は「Alt+Enter」です。】

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価) “ほっとやすらぎ、笑顔で、自分らしく”を理念にしている。 (外部評価) 開設直後に職員全員で話し合っって独自の理念を作っている。地域密着型としてさらなる理念を検討したが、既存の理念が全ての思いを包括しているため、これに代わるものはないという思いを強くしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価) 理念を共に意識しながら話し合い、日常的に取り組んでいる。 (外部評価) 新任職員と共有する難しさはあるが、月1回のミーティング時のみならず、日々の生活の各場面を通して話し合いながら、理念の実践を目指している。		
3		○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価) 2ヶ月に1度推進委員会を開催。理念の啓発に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 季節の花や野菜を作ったり、ベンチを置き、入りやすい雰囲気作りを心がけている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 夏祭り等開催し、地域の交流を図る。 (外部評価) 学生ボランティアを受け入れている。また、自治会に入り、行事には参加しているが、地域の人と顔の見える付き合いは少ない。	※	買い物に出向いたり、散歩の途中で出会う近所の方と、日常的な交流ができるよう工夫することが求められる。運営推進会議での情報交換を有効に活用し、積極的に地域活動に参加できるような取組みを期待する。
6		○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) できてない	※	認知症ケアの研修会や相談会を開催する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 評価の一連の過程を通じ、指摘部分は改善し、質の向上に繋げている。 (外部評価) 前回評価を受けての改善については、職員全員で対策を検討し、具体的に取り組んでいる。自己評価についても、一人ひとりが自分で取り組むことで、自己を振り返り、ケアの質の向上に結び付けている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催し、意見交換を行っている。 外部評価の結果を話し、その中からボランティアを活かした買い物や外出ができた。 (外部評価) 大学や高校の先生をメンバーとして、制度や組織づくりなど、研修会的な会議となっている。	※	例えば婦人会、青年会、地域の消防団、商工会議所など、地域活動の推進役となっているキーパーソンをメンバーに加えて、様々な意見を引き出し、改善に向けた具体的取り組みにつなげて行くことを期待する。
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価) できていない (外部評価) サービスの向上に役立つよう、市社会福祉協議会主催の地域ケアネットワークに参加し、研修会を開催している。	※	充実した“ほっとだより”を作成し、配布する。
10		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在一人の入居者に対し、制度利用を検討している。	※	研修会等行い、理解する。
11		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待は、一例もない。 利用者本位のサービスを心がけている。	※	研修会を行い、理解する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所時、家族・入居者への説明文書を手渡している。		
13		○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関ロビーに苦情ポストを設置している。又、個別に管理者や居宅のケアマネージャー等が話しやすい雰囲気を作り相談にのっている。		
14	7	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 随時連絡をとり報告。 定期的に「ほっとだより」を発行している。 (外部評価) 来訪する家族がほとんどなので、その度に利用者に関わる全てのことを報告している。月に一度は担当職員が個別に手紙で様子を知らせている。		
15	8	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会等、機会あるごとに意見を求めている。 又、運営推進会議、市町村の相談窓口がある事を伝えている。 (外部評価) 3か月に1度家族会を開催しており、出された意見や要望を真摯に受け止め、改善できることから取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に一度ミーティングを行い、意見交換をしている。		
17		○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 臨機応変に対応している。		
18	9	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) ダメージを考え、最近の異動はない。 異動は最小限である。 (外部評価) 理念の共有が難しいことで退職したケースなどもあるが、利用者等に前もって説明はしていない。	※	ユニット間の交流などを通してできるだけ顔見知りになっておいて異動するなど、利用者が不安にならないような配慮をしながら適切な異動ができるような工夫を期待する。
5. 人材の育成と支援					
19	10	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の機会を増やし、技術の向上を図っている。 (外部評価) 様々な研修会の情報を公開し、段階に応じた研修が受けられるよう計画的に配慮している。	※	院内研修をする

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 相互評価の参加、地域ケアネットワークへの参加をしている。		
			(外部評価) 近隣のグループホーム間で相互評価に取り組んだり、管理者同士のネットワークはあるが、身近な地域の同業者での職員間の交流はない。	※	地域のグループホーム間でネットワークを組み、職員の相互研修を通して、ケアの質の向上につながるよう取り組むことを期待する。
21		○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) ストレスは軽減されていない。	※	スタッフ相互の親睦会や悩みの聴取の機会を設ける。
22		○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 努めている。	※	ユニットごとの目標を定める。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
23		○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 病院、他グループの連携で、なじみの関係ができています。	※	センター方式を利用することによって、本人との信頼関係を作る。
24		○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 納得いくまで説明。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25		○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 状況にあったサービスを心がけている。		
26	12	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 家族の協力を得ながら、安心したサービスを心がけている。 (外部評価) センター方式を取り入れることで、その人を知るという着目点を大切にしており、利用前に訪問や見学来訪を重ね、顔なじみの関係をつくるよう心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩とし共に過ごし学び、支えあう関係作りを心がけている。 (外部評価) 料理の仕方、食材の切り方など利用者の得意な分野について教えてもらいながら、一緒に調理をしている。粕甘酒のつくり方なども教わっている。		
28		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会を3ヶ月に1回開いている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
29		○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 利用者のホームでの暮らしぶりを詳しく報告し、家族の協力も得ている。		
30		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 時季の墓参りを支援している。 ドライブに誘っている。		
31		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 楽しく関わりが持てるよう、雰囲気作りを心がけている。		
32		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 他施設に移っても、暑中見舞いや様子を伺いに行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) できる限りの希望の把握はしている。 (外部評価) 利用前の暮らしぶりや家族の話を知ったり、日々の生活の中で利用者へ声かけしていく中から、暮らし方の希望や意向を少しずつアセスメントシートに付け加えて把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
34		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) センター方式を利用し、情報収集に努めている。		
35		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価) レベル低下と共に、マンネリ化した毎日になっている。	※	声かけを行う。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価) 家族の意見・要望は、積極的に取り入れカンファレンスを行い、意見交換している。 (外部評価) 担当の利用者について介護計画を評価して、より具体的な介護計画の素案を作成している。それを基に、計画作成担当が他職員の気づきや家族の意見を取り入れ、ミーティング時に検討を加えて仕上げている。		
37	16	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価) 状態の変化があった場合は、随時のカンファレンスを行い、計画の見直しを行っている。 (外部評価) 利用者の状態によって、3か月、6か月と期間に応じて見直しを行っている。また、状態に変化が見られた場合は、状況に応じて見直しを行い、より具体的な介護計画としている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別にカルテに記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価) 本人の暮らしをなじみの職員が継続して支えていく。 (外部評価) 本人や家族の要望に応じて病院受診や墓参り、自宅訪問などの外出支援を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 今治南高園芸クラブ、明德短大、商店の協力は得ている。		
41		○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) 独居だった利用者の庭木の剪定を、シルバーセンターに頼んでいる。		
42		○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) していない		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	18	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 母体が病院なので、すぐ受診可能である。 (外部評価) 家族がかかりつけ医の受診に付き添う場合は、日常の様子を口頭で伝えている。	※	利用者のかかりつけ医と情報の共有がスムーズに行えるよう、受診時には、日常の健康状況の変化などの記録を持参したり、薬の服用状況などが伝わるような文書を所持するなどの工夫を期待する。
44		○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 母体が病院の為、連携しての治療が受けられる。		
45		○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 看護職員が常時勤務している。		
46		○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 母体が病院の為、迅速な対応ができる。		
47	19	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 家族、病院と連携を図り、方針を決めている。 (外部評価) 重度化や終末期に関しての方針を入居時に家族には説明しているが、明文化していない。	※	重度化や終末期は避けて通れないので、ホーム独自の方針を明記すると共に、マニュアルを作成し、本人、家族を中心に、関係者が話し合いを繰り返し、全員で方針を共有しておくことが望ましい。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48		○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 母体が病院の為、連携を取りながら支援している。		
49		○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) これまでのケア等の情報を詳しく伝え、環境や暮らし方の継続性に配慮してもらえるよう働きかける。又、訪問や面会等により、継続的に関係を持つ事を努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
50	20	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) さりげない言葉かけをしている。 (外部評価) 職員は認知症についてよく理解しており、尊厳を損ねることのない対応に徹している。また、個人情報にあたる記録は勿論、写真の公開などについては、家族の意向にそって十分な配慮をしている。		
51		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望を尊重している。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	21	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 希望に沿った支援を心がけているが、できない日が多い。 (外部評価) 起床や食事についても利用者の要望を大切にしながら、生活のリズムがつかめるよう根気強く声かけをしている。	※	レベルの低下と共に支援、決まりごとに対応するのが精一杯の状況。 スタッフのレベルアップを図る。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 希望された場合は、理容院へ連れて行っている。他の人は、ホーム専属の理容師に来てもらっている。	※	外出等におしゃれをして外出するようにする。
54	22	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) レベルの低下と共に、一緒に準備する事はほとんどない。 (外部評価) 調理から片付けまで、できることを見つけながら参加してもらうことで、食事に対する意欲を引き出す工夫をしている。そろって食事ができるよう、職員が必要な介助を適切に行っている。	※	音楽（BGM）を流す。
55		○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 月に4回位、体調に合わせて晩酌する人もいる。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
56		○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表を作成し、パターンを把握しながら自立に向けての支援を行っている。		
57	23	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価) 職員の3人いる時間帯に入ってもらっている。 (外部評価) 夕食後や寝る前に入りたいと希望する方はなく、自然に午後の時間帯に、希望者から順番に一人ずつ入浴している。	※	温泉に入浴に行く。
58		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転しないよう、日中は睡眠を取り過ぎない様心がけ、適度な運動を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価) 無理のない程度に役割をお願いしている。 (外部評価) 一人ひとりできることを把握し、それぞれに担当を割り振っている。うたを歌ったり、ラジオ体操などのレクリエーションや、ドライブなどできることを支援している。	※	センター方式によって把握した本人の意向や思いを活かした役割や楽しみごとの支援を期待する。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ボランティアによる買い物支援をしている。		
61	25	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価) 可能な限り希望に沿っている。 (外部評価) 庭先の菜園に出るくらいで、日課として外に出られる機会は少ない。	※	時間を作りもっと外出の機会を作る。
62		○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価) 墓参りの支援をしている。	※	温泉旅行も検討している。
63		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) スタッフルームの電話は、自由に使用できる事は、入居者に伝えている。		
64		○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価) いつでも自由に訪問可能		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 常に見守り、入居者の状況等を把握し、拘束の無いケアをしている。	※	「身体拘束をしないケア」の研修を行う。
66	26	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 感知鍵のチャイムを設置しており、日中玄関はいつも鍵をかけず対応している。 (外部評価) 各階ごとにあるどのユニットも鍵はかけておらず、自由にエレベーターで移動できる状態にしている。1階にデイサービスセンターがあり、玄関脇の事務所には複数の職員が常駐しており、支援が得られる体制にある。		
67		○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 見通しがよいので状況の把握は出来やすい。場を離れる時は、スタッフ同士必ず声を掛け合っている。		
68		○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) スタッフルームか目の届くところに管理している。		
69		○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 事故に至らないことでも、ヒヤリハットで報告。危険への気づきを収集し、事故防止に活かしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) AED講習会に参加		
71	27	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年2回実施している(5月・11月)。 (外部評価) 警備会社の支援を得て、事業所内で年2回火災を想定した避難訓練を実施している。火災報知器の定期点検も実施している。	※	日頃より近隣との交流を心がけている。 防火扉の外への避難だけでなく、消防署に依頼をして適切な避難訓練の検討、また地域の協力を得られるような関係づくりとマニュアル整備に取り組むことを期待する。
72		○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	(自己評価) 面会の時、現状を伝え、家族の理解は得ている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 勤務交代時には必ず申し送りし、連絡ノートにも記入。看護師に相談し、支持を仰いでいる。		
74		○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 毎食後に一人ひとり手渡しし、薬の目的を伝えている。		オブラートの使用やとろみをつけ、服用しやすくしている。

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
75		○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食材に気をつけ、毎朝ヨーグルトを提供。運動や体操を取り入れている。		
76		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 夜は義歯はずし、洗浄してから消毒液に浸している。		毎食後口腔ケアの声かけと支援
77	28	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後摂取量をチェックし、献立ノートを作成。 夜、配茶及び誤嚥防止の為とろみ茶 (外部評価) 利用者それぞれに個別の必要量を把握しており、食事及び水分摂取量を日々記録することで、適切な支援ができている。		
78		○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	(自己評価) 感染対策マニュアルがある。インフルエンザ予防接種を行っている。		
79		○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 熱湯消毒、次亜塩素酸ナトリウム、アルコール消毒をこまめに行い、生ものは早い目に食べるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
80		○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 季節の花、野菜を植えている。 玄関横にベンチを設置している。		
81	29	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に応じた壁画や花を活けている。 カーテンで日射を調節している。 (外部評価) 居間や廊下はゆったりとしており、清掃が行き届き、思い思いに過ごせるスペースがある。季節の花があちこちに飾っており、ほっとする雰囲気作りに心がけている。		
82		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下・ホールにソファやイスを置き、ゆっくりくつろげる。		
83	30	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの布団や家族の写真を置かれ、心を癒されている。 (外部評価) ほとんどの部屋のドアが開放されており、十分な広さの中に小物入れ、座いす、机、写真、植木鉢、位牌、テレビなど思い思いのものが持ち込まれ、利用者の居心地よい暮らしぶりが感じられる居室となっている。		

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	※印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
84		○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 冬は床暖房になっており、各室エアコン設備している。 換気は随時行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下、脱衣所、風呂場、トイレ随所に手すりを設置している。		
86		○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 各居室に花の名前、各自のネームプレートをかけている。 トイレのドアの色を変えている。		
87		○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 家庭菜園の畑を作り、園芸セラピーに参加している。		

(注)

- 1  部分は自己評価と外部評価の共通評価項目。
- 2 全ての自己評価又は外部評価の項目に関し、具体的に記入すること。

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	1 ほぼ全ての利用者の (自己 2 利用者の2/3くらいの 評価) ③ 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	家族から情報収集しているが、自己主張が乏しい方が多いので解らない。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	1 毎日ある (自己 ② 数日に1回程度ある 評価) 3 たまにある 4 ほとんどない	歌の日、ゲームの曜日を決めている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	理念があるため
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	声かけや関わりを多く持つ事で心開いてくれる。
92	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	明德短大生のボランティアの方々や買い物や近くの公園へ散歩に出かけている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	(自己 ① ほぼ全ての利用者が 評価) 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	看護師にいつでも看てもらえ、異常があればすぐ受診可能である。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	1 ほぼ全ての利用者が (自己 ② 利用者の2/3くらいが 評価) 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	臨機応変に利用者本位の支援を行っている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができていく	(自己 ① ほぼ全ての家族と 評価) 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	ケアプラン作成時、家族の要望を取り入れている。改善すべきところは、迅速に対応している。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	1 ほぼ毎日のように (自己 2 数日に1回程度 評価) ③ たまに 4 ほとんどない	「夏祭り」開催。地域の行事になっている。

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	① 大いに増えている (自己 2 少しずつ増えている 評価) 3 あまり増えていない 4 全くいない	イベント事には、協力して下さる。
98	職員は、活き活きと働けている	① ほぼ全ての職員が (自己 2 職員の2/3くらいが 評価) 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	同じ理念を共有し、目的に向かって努力している。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1 ほぼ全ての利用者が (自己 2 利用者の2/3くらいが 評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	外出の機会を増やしたい。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	① ほぼ全ての家族等が (自己 2 家族等の2/3くらいが 評価) 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	面会時には、いつも感謝の言葉をかけて下さる。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

自由があり、今までの暮らしの継続ができる、利用者本位のサービスを心がけている。また、病院が母体の為、病急急変の場合も病院と連携して迅速な対応ができ、安心して生活していただける。

リハビリを積極的に取り入れ、機能回復やレベルの低下予防に取り組んでいる。